



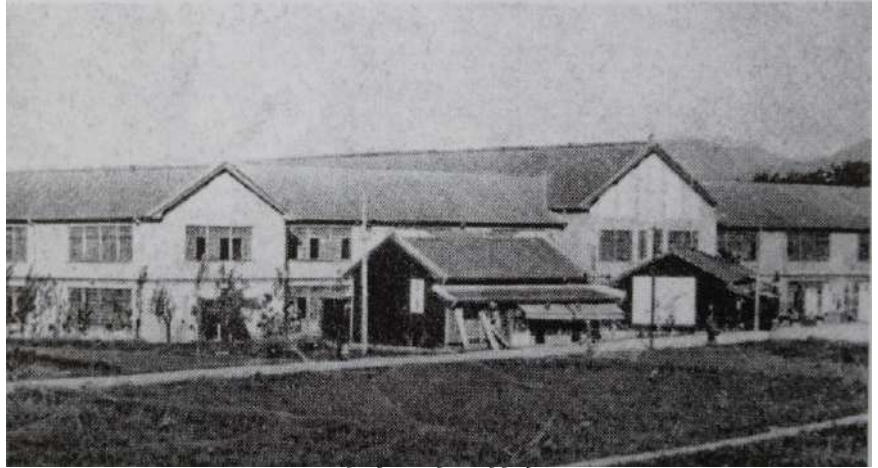
向陵広場

発行号 第25号
発行日 平成30年 2月15日(木)
発行元 向陵編集校友会
責任者 伊藤有司 (県10回卒)

豊商同窓会三代会長 神谷 邦雄 (市商14回卒) 昭和16年3月卒



神谷邦雄氏



市商 東田校舎



市商 講堂

邦雄氏の父は栄一、母はつの長男として大正十三年豊橋市に生まれた。松葉小学校から昭和十一年豊橋市立商業学校に入学した。

豊商時代の五年間は思い出多い青春時代ではあったが、なりふりかまわず戦争に突入していった灰色の時代でもあった。そんな中でも基本的な教育は平和な時と同様に充実したものがあり、まともに教育を受ける事が出来た最後の時代でもあった。

一年生から柔道に熱中した。勉強も教練も真面目に、ささやかながら青春も謳歌した。十六年、同志社高等商業学校に入学、その年の十二月太平洋戦争が勃発し、修学年限は早まり

十八年九月に卒業、十月同志社大学に進学した。満二十歳徴兵検査に合格し幹部候補生として第一歩を踏み出したが、運がよく原爆投下二日前に広島を出発し、卒業目前に終戦を迎えた。

豊商、同志社高商、同志社大学時代を通して柔道に精進し、高商時代には全国高専選手権で日本一の王座についた。大学時代も主将の重責を担って活躍した。高商、大学時代は四段で、全盛期であった。

大学卒業後、二十一年九月父栄一創業の合名会社神谷電機商会に入社、以来父の片腕となり次々と事業を拡げていった。三十二年豊橋ナショナル電器販売会社を設立し、取締役社長に就任した。その後、六十三年愛知県下七販売会社の再編合併により、愛知ナショナル家電販売会社の代表取締役相談役に就任。平成二年社名を改称し、愛知松下ライフエレクトロニクス株式会社代表取締役相談役に就任した。以来職を辞任するまで五十有余の年にわたり松下幸之助の経営理念に賛同し、家電業界の発展に多大の貢献をしてきた。

五十二年豊橋市教育委員並びに委員長をはじめとして、五十五年豊橋市体育協会副理事長、理事長、豊橋善意銀行副会長、NHK 中部地方番組審議委員に就任し、平成元年辞任するまで地方番組審議のために尽力した。

次いで会長を受け豊橋市の環境美化に活躍、この運動はやがて全国的な拡がりを見せ多くの見学者が訪れるようになった。家庭にあっては、よき夫であり父であり、六人の孫に囲まれ、笑顔が絶えることなく多くの公職を持つ人と思われないほど明るい日々を過ごしていた。

豊商一年の時から始めた柔道は大きく実を結んで、三十四年から五十五年までの二十一年間、母校柔道部の師範講師を務め、多くの後輩を育て上げた。愛弟子に九回生太田年彦七段、十回生弟神谷收彦六段・現豊商柔道部師範、十二回生に故田中晃司もいた。五十六年八月、講道館柔道七段昇段を祝う会が、ホリディ・イン豊橋で豊商柔道OB会、豊橋一心館道場有志の主催で行われた。一心館一門の加藤筆吉氏は偉業をたたえる言葉を贈ったあと、「柔道をもっと盛んにし、青少年育成に役立てたい」と強調された。

「豊商の群像Ⅱ」仁連木の人々より抜粋